



海外事情

# インター プリベント 台湾参加報告

梶木 敏仁

はしのき としひろ

財砂防・地すべり技術センター  
総合防災部 技術課長

## はじめに

環太平洋インタープリベント2010が台湾の台北市で4月26日から30日にかけて開催された。当センターからは池谷浩理課長、菊井稔宏砂防部次長、梶木敏仁総合防災部課長が参加した。

インタープリベントは1967年にクラゲンフルト(オーストリア)で第1回が開催された以降、ほぼ4年に1回のペースで本会議が行われ、前回本会議(第11回大会)は2008年にドルンビルン(オーストリア)で開催された。

環太平洋インタープリベントは、1992年のベルン会議においてインタープリベント学会環太平洋支部の設置が合意され、2002年に松本市、2006年に新潟市で開催されている。今回、台北市で開催された環太平洋インタープリベントは日本以外で開催された初めての会議となる。なお、環太平洋インタープリベントは本会議の中間年に開催されている。

## インタープリベント2010

今回の会議のメインテーマは「洪水、暴風雨、土石流、マスマーブメント、地震等を含む自然災害からの被害軽減」で、サブテーマとして、①現地調査や機構解析の手法、②社会経済的被害に対する危機管理、③地球温暖化に対する減災戦略、④災害復旧活動、⑤持続的な土地利用管理、⑥大規模土砂災害の二次災害と復興(集々地震、新潟県中越地震、岩手・宮城内陸地震、汶川地震、Morakot台風)が設定された。

今回の参加国はアジアから5カ国、オセアニアから2カ国、ヨーロッパから8カ国、北アメリカから1カ国の計16カ国で、250名以上の参加者があった。

開会式が4月26日9時20分過ぎから始まり、大会実行委員長とインタープリベント会長の挨拶があった。引き続き全国治水砂防協会岡本正男理事長ら5名の基調講演が行われた。まず、ホスト国である台湾の行政院農業委員会水土保持局 呉輝龍局長が“Multi-Strategies of Debris Flow Disaster Mitigation under Climate Change Impact in Taiwan -New Challenges/ Lessons from Typhoon Morakot of 2009-”と題して、2009年に台湾を直撃し、甚大な被害をもたらしたモラコット台風に対して、災害の概要、土石流のモニタリング及び土石流対策の戦略、総合的な流域保全と復旧方針などを示された。最後に、今後の土石流対策の方向性として、“ACTIVE”を合い言葉に実施する予定であると。ACTIVEは、Advanced、Community、Technology、



挨拶する呉局長



オーストリア砂防部長Maria Patek氏と  
歓談する池谷理課長

Integration, Value, Educationの頭文字を取ったものもある。

岡本理事長は“The Transition of Sabo Works for Disaster Mitigation in Japan”と題して、日本の土砂災害の発生状況、土砂災害防止法や堂々川の砂留群(福山市)など我が国の砂防歴史、砂防技術を熱弁された。

26日の午後から27日にかけて計46件の口頭発表が行われ、うち7件が日本からの口頭発表であった。池谷浩理事長、水山高久京都大学大学院教授、丸井英明新潟大学災害復興科学センター教授、久保田哲也九州大学農学研究院准教授、権田豊新潟大学農学部准教授の5名がセッションの座長を務めた。また、同時に2会場において約100件のポスターセッションも行われ、日本からは10数件のポスターが示された。

## 台湾事情

台湾グルメといえば、小籠包である。数ある小籠包の店でも“鼎泰豊”はニューヨーク・タイムズに「世界10大レストラン」の1つとして掲載された世界的に有名な点心料理専門店であり、台北に本店がある。本店はインタープリバント会場から徒歩20分くらいの場所にあった。本店はビックリするほど普通というか、趣がなく、残念な感じがした。小籠包の味もビックリするほどでもなく、鼎泰豊の近くにあった“高記”の小籠包のほうが口に合ったし、その東坡肉は絶品であった。

台湾の夜といえば、“夜市”である。台北市の夜市の中でも“師大夜市”と“士林夜市”に出かけることができた。日曜日の夜に師大夜市に出かけたが、身動きでないほどの混雑ぶりであった。通りの左右には屋台や店があり、屋台ではかき氷、ラーメン、オムレツなどなど多種多様なものがあった。師大夜市は師範大学の近くだけあって客層が若く、おじさんが3人で歩いていたので、ちょっと違和感があったかもしれない。

## おわりに

今回のインタープリバント本大会は2012年グルノーブル(フランス)で開催される。インタープリバントに対する日本の役割は、池谷浩理事長が本部副会長を、丸井英明教授が本部理事兼技術諮問委員を務めるなど、益々大きくなってきている。日本の砂防技術を世界の方々に示すよい機会である。2012年は皆でグルノーブルに行って発表しよう。



口頭発表の会場(立ち見ができる程の大盛況であった)



ポスターセッションの様子



鼎泰豊本店の入り口



にぎわう士林夜市